

戦争の悲惨さ共有

「広島平和の旅」
参加の中学生

市役所で報告会



「広島平和の旅」に参加した中学生が今井市長らに感想を語った報告会

茅野市がコロナ禍で4年ぶりに実施した非核平和事業「広島平和の旅」に参加した市内の中学2年生らによる報告会が8月29日、市役所で開かれた。今井敦市長や山田利幸教育長らに生徒8人が一人ずつ旅の感想を報告した。

広島平和の旅では、生徒と教諭、市職員計11人が8月5～7日の日程で広島県を訪問。6日は広島市の平和記念公園で行われた平和記念式典に参列し、原爆被害者証言のつどいに出席。夜は原爆ドーム横の元安川で灯籠流しを行った。7日には原爆の子の像に学校などで募った約9000羽の千羽鶴を供え、広島平和記念資料館を見学した。

報告会で生徒たちは「戦争の悲惨さを友人たちと共有し、平和を伝達していく」「旅で学んだことを日々の生活に生かし、平和についてより深く考えていきたい」「お互いを理解し、相手の気持ちを考えることが平和への第一歩にな

ると思ったので、思いやりのある行動を心掛けたい」などとそれぞれ語った。

報告を受けた今井市長は「それぞれがいろいろな経験や思いを持って帰ってきてくれた。戦争に関わる経済や農業の政策などのことも合わせて、これからも勉強を続けていってほしい」と述べた。